

# 二本の矢花園へ一つに

## 芦別・羽幌・富良野合同チーム



準決勝の中標津戦の後半、一丸となって攻め上がる中川(中央)ら芦別・羽幌・富良野合同チームの選手たち。21日、芦別市なまこ山総合運動公園(畠中直樹撮影)

### ラグビー

28日のラグビー北海道高校南北選権の北大会決勝(札幌月寒ラグビー場)に、芦別・羽幌・富良野の合同チームが出場する。合同チームの決勝進出は南北通じて初めて。羽幌から芦別、富良野まで車で3時間弱。遠く離れた3校の合同チームが発足したのは5月だった。限られた時間で確かなチームワークを育み、決勝まで勝ち上がった25人の選手たち。全国高校ラグビー(12月27日開幕、大阪・花園ラグビー場)の出場権獲得に燃えている。

21日に芦別市で行われた準決勝。合同チームは中標津を14-12で下し、選手たちは涙に暮れた。「数カ月だったが、仲間たちと練習してきた成果が出せた」。中川稜琉主将は(羽幌)は喜びをかみしめた。芦別・羽幌・富良野は、昨秋の新人大会に旭工を加えた4校合同で出場した時からの縁だ。各校は単独出場を目指して今年4月に新1年生獲得に力を入れたが、旭工以外は15人に満たず、3校で再び合同チームを結成し

## きょう決勝 距離縮め 仲間と「楽しむ」

芦別の主将小野晴也は「(昨秋の)新人戦はただのチームメイトという感じで、5月ごろはまだ壁があった」と振り返る。日々の試合や合同練習を重ね、8月の合宿でチームの絆が強まっていった。

チームの決まりは「楽しんでラグビーをすること」。副監督(羽幌)は「楽しんでプレーする姿を見た小中学生が、ラグビーをやりたいと思うてくれるかもしれない」と、選手不足で結成したチームならではの狙いを話す。

21日の準決勝では、後半残り1分まで中標津に5点リードを許していた。絶体絶命のピンチの中でも、合同チームの選手たちは「笑え」「楽しめ」と励まし合い、下を向いている選手はいなかった。

規定の改正で昨年度から部員不足による合同チームも花園への門戸が開かれ、芦別・羽幌・富良野が出場すれば、昨年出場した若狭東・敦賀工(福井)に続き、全国2例目となる。

決勝では昨年王者の遠軽とぶつかる。「強い相手なのはもちろん分かっている。でも目標は花園出場です」。中川主将は力強く宣言した。

(安沢悠大)